

徳田の歴史-17

“徳田”の地名と管理領地名

1/2

徳(得)な田んぼが多く存在していたのでこの地名になったと言われている。それは何らかの理由でこの徳田地で収穫された米、麦、等に税金のかからない免租地であったことや収穫量が他の地域より高く、農業に恵まれた肥沃な土地柄であったことを意味している。

●江戸時代(1603～1868年)初期はこの徳田地域は伊勢上野城(現在の河芸町)、城主、分部氏の領地であったが元和5年(1619年)以降は紀州和歌山藩領となり明治8年(1875年)の地租改正の際に徳田、畑、横地、垣外、三田ノ木を併せて徳田となり河芸郡天名村徳田となった。

その後昭和29年(1954年)8月1日に鈴鹿市に編入合併し鈴鹿市徳田町となる。

※伊勢上野城

現在の津市河芸町上野に城跡がある。

今は“本城山青少年公園”となっている。

築城者は織田信長の弟(信包)で元亀元年(1570年)に築城されている。

分部氏(ワケベ)が最後の城主(~1619年)であった。



現在の本城山青少年公園入口



天守閣の跡地
今は展望台となっている

※紀州藩

江戸時代に紀伊国と伊勢国をまとめた。

(現在の和歌山県と三重県南部域)

藩庁は和歌山城(現和歌山市)で初代藩主は徳川頼宣(1619~1667)で白子に代官所(1634年)を置いていた。

紀州藩は白子の港(白子の浦)を重要視し伊勢湾に於ける物流の拠点としていた。



当時の紀州藩白子代官所のあった現在の久留真神社。前の道路は旧伊勢街道で白子港近くの地に鎮座している。